

地域人材教育開発機構の誕生！

三重大学は、地域貢献大学として、三重県の文化や産業を結ぶことにより地方創生を担う人材の育成、さらには、学際的・総合的な視野を持ち国際的にも活躍できる高度専門職業人の育成に向けた機能の強化を目指しています。

地域人材育成推進会議を通じて得たステークホルダーの方からの助言や提言を今後の教育の改革と開発に結び付けるため、地域人材教育開発機構を設置しました。

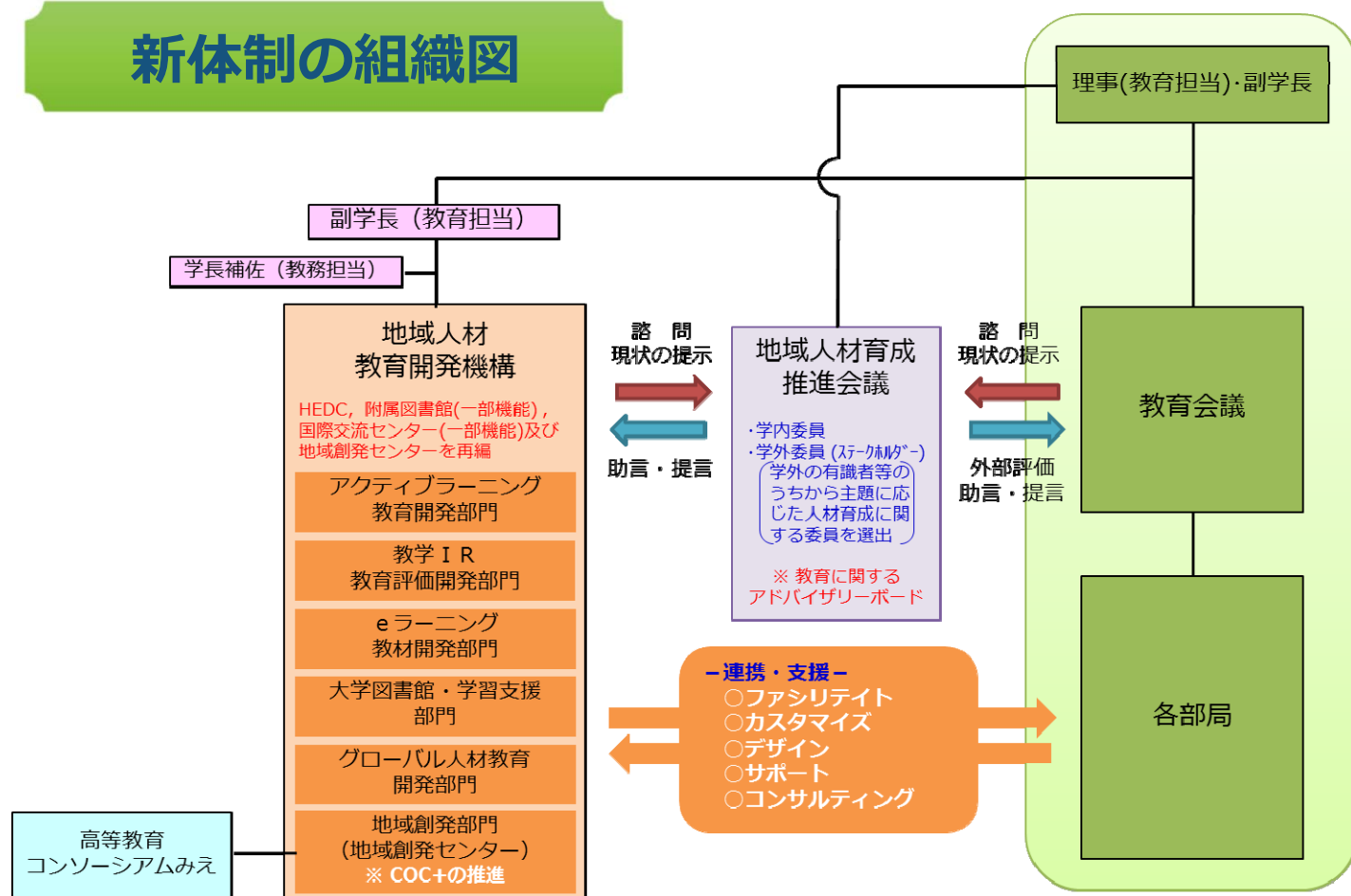
本機構では、改革や改善をリードし新しい教育の内容や方法を提起するファシリテイト機能やデザイン機能を重視します。さらには、各学部・研究科の特色や要望に応じて出された提案を調整するカスタマイズ機能、教育・研究の実践支援や後押しをするサポート機能、コンサルティング機能に取り組めます。

これらの機能を発揮することで本機構が全学をつなぐ「ギア」となり、体系的なカリキュラムを開発し、地域及び世界に貢献する人材の育成を推進して参ります。

機構長 理事(教育担当)・副学長 山本 俊彦



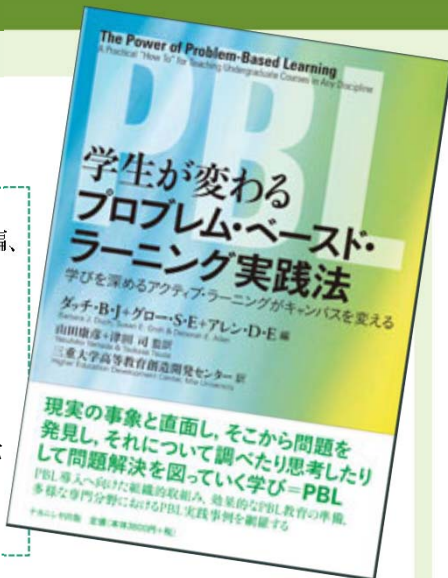
新体制の組織図



書籍のご紹介

バーバラ・ダッチ、スーザン・グロー、デボラ・アレン編、山田康彦・津田司監訳、三重大学高等教育創造開発センター訳(2016)

『学生が変わるプロブレム・ベースド・ラーニング実践法—学びを深めるアクティブ・ラーニングがキャンパスを変える』ナカニシヤ出版



本書はデラウェア大学におけるPBL教育の先進的な取り組みを紹介する三部構成となっている。まず第1部は「導入へ向けた組織的取り組み」としてPBL教育の意義や基本的な考え方、また大学として教育改革を組織的に進める上で必要なことや執行部のあり方を明らかにしている。続く第2部は「効果的なPBL教育の準備」と題し、異なるクラス規模におけるPBL教育の類型、PBL授業の進め方やその中で扱われる事例問題の作成法、グループや学生チューターの活用法、評価方法といった具体的な内容が示されている。第3部は「多様な専門分野における専門事例」として、自然科学系から社会科学系の専門科目や教養科目、さらには看護師や教員養成などの専門職養成科目にわたる授業を対象とした、各専門分野の特質を踏まえた実践例によって構成されている。大学として組織的改革を進める上で必要なことを念頭に置きつつ、具体的な方法を示唆しながら、多分野にわたる実践例を備えて繰り返し上げられる贅沢な一冊である。

原著の翻訳に着手してから十余年の年月を経ての刊行となったが、微塵も古さを感じさせない内容であるばかりか、その間の日本におけるPBL教育の展開・発展にとってあらためて本書が指南してくれることの重みを実感できるはずである。といってもそれはPBL教育がいかに重要で正しいか、ということを経験的に述べるのではなく、「著者はしがき」にもあるように、取り組みを広めるにあたっての同僚たちの質問や悩みを共有し、それに答えるかたちで具体的な方法や実際の実践事例を間において互いに理解を深める、という実践的な姿勢ゆえである。現在、アクティブ・ラーニングが急速に推進される状況下で、PBL教育があらためて見直される契機にある。PBL教育の全学的展開を先駆的に進めてきた三重大学においても、この十年余りの自分たちの歩みを振り返りながら今後を展望するにふさわしい一冊となることだろう。

ややもすると形式にとらわれがちなアクティブラーニングにおいて、学生の表層的ではない深い学びのために、取り扱うproblemの質(中身)を重要視していること、そしてその問題との出会わせ方や向き合い方という意味において、グループ編成やチューターの活用、授業形態に関する具体的な方法、つまり(かたち)の絶えざる検討を目指す姿勢に学びたい。(守山 紗弥加)

FD情報交換会を開催しました

12月13日(火)に第1回FD情報交換会を開催しました(参加者14名)。各部署におけるFD活動の実施状況や課題等について、各部署のFD委員と地域人材教育開発機構員との間で共有・議論されました。

自己紹介を兼ねたアイスブレイクに続き、各部署固有の取り組みや困難さ等も含めた様々な実情が報告され、「(頻繁・熱心に開催されているが)企画を考えるのは大変では?」「主催学部外の教員も参加可能か」といった具体的な質問や、「FDは先生が先生を鍛えるというより、学生について語る中で先生方もブラッシュアップされるのが理想なのではないか」等の視点も出され、研修のあり方を考える有益な機会となったように思います。



FD情報交換会の様子

次回は3月の開催を予定しております。

全学FD開催のご案内

下記日程で全学FD研修会を開催する予定です。多数の教職員の皆さまのご参加をお待ちしております。

★ 2月13日(月)13:30-16:00

「アクティブラーニングの効果と反転授業の可能性」

関西大学教育推進部 森 朋子 教授
場所: 総合研究棟Ⅱ 1階メディアホール

★ 3月10日(金)13:30-16:00

「高大接続の在り方とパフォーマンス評価」

京都大学教育学研究科 西岡 加名恵 准教授
場所: 環境・情報科学館 3階

【お申し込み】

開催日1週間前までに、お名前、ご所属、参加希望の研修会を明記の上、地域人材教育開発機構 (hedc@ab.mie-u.ac.jp)へメールでお申し込み下さい。

NEWS LETTER vol.47 2016年12月20日発行

国立大学法人三重大学 地域人材教育開発機構
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577
TEL:059-231-5615 FAX:059-231-2354
E-MAIL:center@hedc.mie-u.ac.jp
<http://www.hedc.mie-u.ac.jp/>